

漢字はホントは面白い V

形の面白い漢字



杉本 浩

漢字には、形・音・義の三要素があると言われていますが、私は建築屋のせいか、特に形に関心があります。今回は、古代文字も含め、図形として見て面白い漢字を挙げてみます。



コウ

まずは左右対称の漢字。といっても、山・日・口 などいくらでもありますね。でも左の字にはちょっとびっくりです。邑(ユウ)は「まち」や「むら」を意味する字ですが、それを左右対称に並べて、「里中のこみち」を意味するそうです。



齋 小篆

「齋」も左右対称ですが、古くは左のように3本のかんざしを描いています。これを楷書(旧字体の「齋」)にする時に、「刀」と「氏」という形で、苦勞して左右対称にしています。



片 小篆

次に、「左右に裏返すと別の字になる」というペアを探します。「片」と「𠂔」がその関係です。𠂔は「状」「将」などの旧字体の左側で、「しょうへん」という部首でもあります。で、この二つは何かというと、版築工法で塀などを作る際の型枠の形といわれます(異説もあり)。まっすぐな方を内側にして、間に土を入れて固めます。出っ張った部分は型枠を支えるパイプのようなものでしょうか。二つでワンセット、一つだけなら「片」方、ということですね。



𠂔 甲骨文



可 小篆

もう一組、ちょっとわざとらしい字があります。左の「可」についてはあたりまえの形ですが、可の小篆を裏返した字もあります。楷書では𠂔と書き、意味は「できない」。実は「可」の反対語として、後になって作られた字のようです。この稿の「小篆」は、「説文解字」という西暦100年にできた字書に載ったものを使っていますが、「𠂔」の字はそれには載らず、986年に出た校訂本にでています。音読みは「カ」ですが、これは「不可(フカ)」が縮まったものといわれています。漢字を裏返して反対語をつくるとは、面白い発想ですね。



𠂔 小篆



从 甲骨文



比 甲骨文

「従」は旧字体では「從」と書きましたが、更に古くは右上の「从」だけで使われていました。これは人が二人並んで、一人がもう一人に付き従っている形です。「人」は基本的に左を向いた形が字になったものですが、この二人が右を向くと「比」となります。とはいえ、从がすべて左向きかというとはなく、右向きに書かれた甲骨文も多いのです。そうなると、形だけでは「比」と区別が付きにくく、昔の人も苦勞したと思います。



即 甲骨文



既 甲骨文

形が裏返しというわけではありませんが、反対の意味を表すペアを紹介します。左の「即」の字は、大盛りのごはんの前に人が座っている形。これから食べるぞということで、「席に即く」ことを意味します。ところが、「既」という字では、人がそっぽを向いています。つまり、「既に」食べたからもういらぬ、というわけです。マンガみたいな字ですが、分かりやすいことこの上ないですね。



萁 甲骨文

次に上下対称の字。これはあまり見つかりませんが、「構」や「講」のつくりになっている「萁」がそうです。組紐をつなぎ合わせた形との説と、木を組み合わせた形との説があります。「再」の字は、この萁の下半分だとされています。



逆 甲骨文

次に上下反転のペア。「逆」のしんじょう以外の部分(左図の右上部)は、「大」の上下さかさまの形です。大は、人が立っている姿の正面形ですから、逆は人が逆さまに落ちてくる姿?いえいえ、実は向こうから手前にやってくる姿を表現したものとされています。逆はもともと、迎えるという意味の字でした。



毓 甲骨文



棄 小篆

「子」の上下さかさまも、いくつかの字に含まれています。「育」の上部もそうですが、育の異体字の「毓」という字は、甲骨文で見ると、女性が子どもを産み落としている様が生々しく描かれています。また「棄」という字は、塵取りのようなものを手で押して、赤子を棄てる様子を描いたものとされています。一番上の子のさかさまです。



矢 甲骨文



至 甲骨文

「矢」の甲骨文は、まさに上を向いた矢の形ですが、これが空から落ちてきて地面に刺さった様子が「至」です。古代、重要な建物を建てる際には、矢を放って落ちた土地を敷地として選定したといわれます。「室」「屋」「臺」などの字に「至」が含まれるのはそうした理由からです。



目 甲骨文

普通、象形文字は、見たままの姿を描きませんが、時々、横のものを縦にして字にする場合があります。「目」がまさにそうです。甲骨文や金文では横のままですが、小篆では縦になりました。「𠂔」（よこめ）という部首がありますが、「目は横が当たり前で、『目』は『たてめ』というべきだ」と突っ込みたくなります。



阜 甲骨文

「阜」（おか）は「こざとへん」の元になった字ですが、横に並んでいるはずの丘陵が、スペースの関係か、縦に並んでいます（こざとへんについては、神様が昇降する「はしご」を描いたものとする説もあります）。



广 甲骨文

もう一つ、先ほど書いた「𠂔」は、版築の板のほかにも、ベッドや床板を縦にした形を表す場合もあります。たとえば「𠂔」（ダク、やまいだれ）。現在では部首として使われていますが、もともとは漢字です。ベッドの上に人が寝ている様子が、90度回転して描かれています。熱があるのか、汗をかいていますね。



回 金文

「面白い形」をもう一つ。「回」の金文は、水が渦巻いている形。目が回ります。



丨 戦国文字

最後に、とてもシンプルでユニークな字。丨は縦棒一本だけの漢字です。しかも、下から上へ引けばシと読んで「進む」の意、上から下へ引けばコンと読んで「退く」の意とされる、不思議な字です。でもそれだと、書いているところを見ていないとどっちか分かりませんよね。

いかがでしたか。大昔の人たちは、一つの字があれば、それをひっくり返したり裏返したりして、新しい字を作ろうと知恵を絞っていたようですね。そうした工夫の跡をたどるのも、面白いものです。

※漢字の字源には諸説あるのが普通です。上記の文は、諸説の中から筆者が適切と思うものを紹介したものです。

◎用語解説

- **甲骨文** 現存する最古の漢字。殷代後期（約3300年前）に登場。占いの内容や結果を亀の甲羅や獣骨に彫り込んだもの。
- **金文** 青銅器の銘文として鑄込まれた文字。殷代末期（約3100年前）に登場し、周代に盛んになった。
- **戦国文字** 中国の戦国時代に書かれた文字で、群雄割拠の時代なので文字も国ごとに変化が大きい。竹簡や帛（布）に書かれたものが多い。約2200～2400年前。
- **小篆** 秦の始皇帝が定めた統一書体。約2200年前。

◎参考文献：

「新訂字統」普及版第5刷 白川静著、平凡社 2011年 他
（文中の古代文字は、台湾・中央研究院のウェブサイト「漢字古今字資料庫」から転載しました）

*私のホームページもご覧ください！

漢字教育士ひろりんの書齋

検索

Google か YAHOO! JAPAN で検索！

この連載のバックナンバーも掲載しています。